10
-北部-

花田（はなだ） 康章（やすあき）
畜産農家

応募のきっかけは？

人生半ばにしてこのままで良いのかと考え、いろいろな情報を集めていました。その中で、萩の見島の協力隊募集を知り、見学に行きました。萩には大学時代に住んでいた経験もあり、誰かの役に立ちたいという思いと、離島はその中でも一番困っているので、自分が行かなければ他に行く人はいないのではないかと考えました。魚釣りも好きだし、農業にも興味があったので応募しました。

見島牛の飼育

どんな活動をしたいと思っていましたか？

ミッションをきちんとこなし、自由に活動したいと思っていました。牛が特に好きということではありませんでしたが、自分が理想としている生活スタイルが見島での生活と一致していました。牛の世話は一年中しなければいけないので、週末になったからといって島外へ出て行くと成り立ちません。島内で仕事から遊びまで完結しなければなりません。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

便利さが違います。島内での生活は不便であるということは、ある程度想像していました。

隊員時代の思い出を教えてください

口に出して言わなくても、自分が一生懸命に牧草を作っているところや、見島牛を飼育しているところを島民の皆さんに見てもらっていました。すると、自然に島の人たちが協力してくれるようになり、少しずつ少しずつ牧草を育てる畑を無償で貸してくださるようになりました。

牛の飼育以外の仕事があると、牛の世話を誰かに頼まなければなりません。一日たりとも牛の世話をしないで良いということはありません。

現在、そしてこれからについて

自分所有の見島牛を飼育し牧草を育てていますが、これだけでは収入が足りないので、空いた時間には他の農業の手伝いや道路維持管理、救急搬送支援などを行っています。今は牛のために他の仕事をしている状況で、これでは駄目なので、いろいろなことを改善し、島での生活を今後も続けていきたいと思っています。見島牛保存会員の平均年齢が高く、今後の存続が懸念されます。見島牛を継続して保護していくために、体制や環境改善をしていきたいと考えています。その体制が整えることができれば、協力隊などの受け皿となることも可能となるので、保存会の存続や見島牛の保存につながります。そのことをアピールし、見島牛を守っていきたいと思っています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

「郷に入れば郷に従え」ということを伝えたいです。自らが地道に、地域に求められ、喜ばれることをしていくのが良いのではないかと思います。そうしていると、地域の人から声をかけてくれるようになります。

魚釣りの様子

花田（はなだ） 康章（やすあき）さん

協力隊として

着任地	萩市
活動期間	2019年3月～2022年2月
活動内容	見島ウシの保存に関する活動

現在の仕事

畜産農家

農場からの景色

花田さんのあゆみ

- 2019.01 見島を見学
- 2019.03 協力隊着任
- 2019.11 農業大学校での研修
- 2019.12 見島牛の飼育開始
- 2020.04 牧草栽培開始
- 2022.02 協力隊卒業